



平成26年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 斎藤 公利

TEL 03-4332-9701

四半期報告書提出予定日 平成26年1月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第3四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益		%
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
26年2月期第3四半期	127,663	5.7	351	△70.8	1,026	△36.5	△276	—	
25年2月期第3四半期	120,809	0.4	1,202	△59.6	1,615	△53.3	△271	—	

(注) 包括利益 26年2月期第3四半期 △83百万円 (—%) 25年2月期第3四半期 △288百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第3四半期	△5.38	—
25年2月期第3四半期	△5.29	—

(注) 平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年2月期第3四半期	96,926		42,278		43.0
25年2月期	91,338		43,390		46.8

(参考) 自己資本 26年2月期第3四半期 41,644百万円 25年2月期 42,714百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	1,000.00	—	1,000.00	2,000.00
26年2月期	—	1,000.00	—		
26年2月期(予想)				10.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成26年2月期における第2四半期末の配当金につきましては、株式分割前の数値で算定しておりますが、期末の配当予想につきましては、株式分割後の数値で算定しております。

3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,000	4.5	1,600	△14.8	2,200	△10.6	250	—	4.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益は、当該株式分割を考慮して算定しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年2月期3Q	66,240,500 株	25年2月期	66,240,500 株
② 期末自己株式数	26年2月期3Q	14,845,900 株	25年2月期	14,845,900 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年2月期3Q	51,394,600 株	25年2月期3Q	51,394,600 株

(注)平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。
・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報P.	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報P.	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報P.	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報P.	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項P.	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動P.	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用P.	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示P.	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要P.	5
4. 四半期連結財務諸表P.	6
(1) 四半期連結貸借対照表P.	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書P.	8
四半期連結損益計算書P.	8
四半期連結包括利益計算書P.	9
(3) 継続企業の前提に関する注記P.	10
(4) セグメント情報等P.	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記P.	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当期の概要

当第3四半期連結累計期間の外食業界におきましては、企業間における顧客獲得の競争は激しさを増しており、当業界を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループでは、各社の成長促進に向けて、スピードのある意思決定を可能とする組織基盤を固めてまいります。また、今まで拡大してきたアジア市場を維持しつつ、中国での成長戦略の実施、米国事業の再構築に着手し、当社グループの成長の新たな原動力を育ててまいります。

そして「多様な人材を取り込み、その人材が実力を十二分に発揮できて、正当な評価を受ける」という企業文化を強化するための促進元年として、多様性を促進していくためのインフラ整備と人事交流をスタートし、あわせて長期的視点に立った人材育成のための研修・教育制度を構築してまいります。

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、前年と比べ68億54百万円増加し、1,276億63百万円となりました。利益につきましては、原材料価格の高止まりや国内吉野家での重点的な広告宣伝費の投下の影響等から連結営業利益3億51百万円、連結経常利益10億26百万円、連結四半期純損失は2億76百万円となりました。

連結売上高	1,276億63百万円	(前年同四半期連結売上高	1,208億9百万円)
連結営業利益	3億51百万円	(前年同四半期連結営業利益	12億2百万円)
連結経常利益	10億26百万円	(前年同四半期連結経常利益	16億15百万円)
連結四半期純損失	2億76百万円	(前年同四半期連結四半期純損失	2億71百万円)

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しており、以下の前年同四半期との比較については、前年同四半期の数値を変更後の測定方法に基づき作成した数値で比較しております。報告セグメントの測定方法の変更の詳細につきましてはP11「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

《国内吉野家》

国内吉野家は、前期に引き続き、「価値創り」「環境創り」「構造創り」を実践してまいります。「価値創り」とは魅力ある商品とサービスの創造、「環境創り」は、お客様がより利用しやすい店舗レイアウト創りや出店戦略を推し進めます。そして「構造創り」によって、構造をリセットし、新しいコスト構造を構築してまいります。今年4月には吉野家の大切にしている価値観である「うまい、やすい、はやい」を実践し、入客数と売上増加に向けて、牛丼を平成16年の販売休止時と同じ価格に改定するとともに「吉野家史上最高のうまさへ」の訴求に向け、全国規模での販売促進活動を行いました。9月には「焼き」にこだわった大判の豚ロースを使用した「ロース豚丼十勝仕立て」、10月には並盛のごはんに牛丼大盛の具をのせた「アタマの大盛」を発売いたしました。また、小盛の牛丼と選べる3種のサラダを組み合わせた「コモサラセット」の発売も行いました。今後も中長期的な吉野家の新しい価値の創造を目指した商品創りを行ってまいります。また、新たな店舗モデルを実現するための「環境創り」につきましては、今後、郊外店舗はドライブスルーを設置し、家族連れや女性客での利用を考えた店舗・設備の開発を続けてまいります。

これらの活動の結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高は680億53百万円と増加したものの、主要原材料の高止まりや、重点的に広告宣伝費を投下した結果、セグメント利益は13億13百万円となりました。店舗数は、21店舗を出店し、24店舗を閉鎖した結果、1,190店舗となりました。

国内吉野家売上高	680億53百万円	(前年同四半期 売上高	648億88百万円)
国内吉野家セグメント利益	13億13百万円	(前年同四半期 セグメント利益	20億8百万円)

《海外吉野家》

海外吉野家は、中国を中心とした出店が引き続き順調に推移し、売上高は92億62百万円、セグメント利益は1億99百万円となりました。

店舗数は、中国大陸40店舗（上海1店舗、福建2店舗、深圳2店舗、北京27店舗、遼寧6店舗、内モンゴル1店舗、黒龍江・吉林1店舗）、香港1店舗、台湾2店舗、シンガポール2店舗、インドネシア4店舗、タイ8店舗、米国7店舗を開店いたしました。合計64店舗を出店し、12店舗を閉鎖した結果、629店舗となりました。

海外吉野家売上高	92億62百万円	（前年同四半期	売上高	74億18百万円）
海外吉野家セグメント利益	1億99百万円	（前年同四半期	セグメント利益	1億25百万円）

《京樽》

京樽は、「お客様を一番に考え行動します」をテーマに据え、接客・販売力の強化、QSC（品質・サービス・清潔さ）の維持向上、そして‘和食’文化の継承伝播に積極的に取り組みます。また、現場力のさらなる強化を目的にフィールドトレーニング室を3月に新設し、真にお客様に向けた営業体制を確立してまいります。テイクアウト事業では主力商品である茶きん鮭や箱鮭などの上方鮭をさらにおいしく改良し、また中巻99円セールを定期的に行いました。回転鮭事業では、より気軽に注文していただき、「鮭」をスピーディに提供するため、特急レーンやタッチパネルオーダーシステムを駆使したタイプの店舗を中心に開店することで、新たな価値を創造してまいります。

これらの結果、売上高は175億38百万円、セグメント損失は98百万円となりました。店舗数は、20店舗を開店し、16店舗を閉鎖した結果、334店舗となりました。

京樽売上高	175億38百万円	（前年同四半期	売上高	180億88百万円）
京樽セグメント損失	98百万円	（前年同四半期	セグメント損失	39百万円）

《どん》

どんは、国内事業活性化をテーマに全業態で「肉（29）の日」のキャンペーンを継続し、更なる集客の強化を図ってまいりました。「ステーキのどん」では、10月よりステーキ食べ放題選手権「第2回どんキング決定戦」をスタートさせ、“食事の楽しさ”を提供し、「フォルクス」では前期からの老朽化店舗の改装による集客、新規顧客開拓を継続いたしました。「どん亭」では、寿司・そばを全店に導入することでしゃぶしゃぶ業態の活性化を図りました。

また、事業成長戦略として、ネットショップでの「外販事業の拡大」と、経営課題克服への重要課題として、階層別研修による「人材育成」に取り組みました。

これらの結果、売上高163億30百万円、セグメント利益1億49百万円となりました。店舗数は、5店舗を開店し、1店舗を閉鎖した結果、176店舗となりました。

どん売上高	163億30百万円	（前年同四半期	売上高	152億2百万円）
どんセグメント利益	1億49百万円	（前年同四半期	セグメント損失	31百万円）

《はなまる》

はなまるは、健康をテーマとした「はなまる」しか作れない素材開発を継続して行い、4月からうどんメニューに使っている麺を、すべて食物繊維を練り込んだ麺に切り替えました。6月からは吸油率を47%カット（従来比）した「ヘルシーかきあげ」の販売もスタートいたしました。また、11月には新メニュー3品を加え、全メニューの価格改定を行いました。一方、9月には東京メトロの駅構内に初出店し、今後もお客様の多様なニーズにお応えできるよう、出店を加速させていきます。

これらの結果、売上高135億81百万円、セグメント利益5億56百万円となりました。店舗数は、26店舗を出店し、16店舗を閉鎖した結果、337店舗となりました。

はなまる売上高	135億81百万円	（前年同四半期	売上高	123億56百万円）
はなまるセグメント利益	5億56百万円	（前年同四半期	セグメント利益	7億45百万円）

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ55億87百万円増加し969億26百万円となりました。負債は、前連結会計年度末に比べ66億99百万円増加し546億47百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末に比べ11億11百万円減少し422億78百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比3.8ポイント減少し43.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の通期の業績予想につきましては、平成25年10月4日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,244	18,564
受取手形及び売掛金	2,757	3,544
商品及び製品	2,388	3,022
仕掛品	52	47
原材料及び貯蔵品	2,147	2,384
その他	2,659	2,937
貸倒引当金	△5	△3
流動資産合計	24,242	30,497
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	25,354	25,616
その他(純額)	13,382	13,478
有形固定資産合計	38,737	39,094
無形固定資産		
のれん	1,685	1,505
その他	2,390	2,063
無形固定資産合計	4,076	3,569
投資その他の資産		
投資有価証券	999	1,075
差入保証金	15,440	15,238
繰延税金資産	1,037	817
その他	7,006	6,815
貸倒引当金	△202	△181
投資その他の資産合計	24,282	23,764
固定資産合計	67,095	66,428
資産合計	91,338	96,926

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,116	5,696
短期借入金	11,630	17,255
1年内返済予定の長期借入金	5,235	5,180
リース債務	800	614
未払法人税等	382	632
賞与引当金	1,212	680
役員賞与引当金	116	85
株主優待引当金	206	349
資産除去債務	19	16
その他	7,394	9,907
流動負債合計	31,115	40,418
固定負債		
社債	750	750
長期借入金	9,534	7,440
リース債務	1,091	1,127
退職給付引当金	591	613
資産除去債務	2,363	2,357
その他	2,501	1,939
固定負債合計	16,832	14,228
負債合計	47,948	54,647
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,139	11,139
利益剰余金	41,105	39,801
自己株式	△18,089	△18,089
株主資本合計	44,421	43,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4	△2
為替換算調整勘定	△1,701	△1,469
その他の包括利益累計額合計	△1,706	△1,472
少数株主持分	675	634
純資産合計	43,390	42,278
負債純資産合計	91,338	96,926

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	120,809	127,663
売上原価	43,241	48,165
売上総利益	77,567	79,497
販売費及び一般管理費	76,365	79,146
営業利益	1,202	351
営業外収益		
受取利息	34	33
受取配当金	47	206
賃貸収入	331	286
持分法による投資利益	108	55
雑収入	582	699
営業外収益合計	1,104	1,281
営業外費用		
支払利息	303	270
賃貸費用	266	206
雑損失	120	129
営業外費用合計	690	606
経常利益	1,615	1,026
特別損失		
減損損失	654	453
契約解約損	48	56
特別損失合計	702	510
税金等調整前四半期純利益	913	515
法人税、住民税及び事業税	1,273	985
法人税等調整額	△64	△106
法人税等合計	1,209	878
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△296	△363
少数株主損失(△)	△24	△86
四半期純損失(△)	△271	△276

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△296	△363
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	1
為替換算調整勘定	10	277
その他の包括利益合計	7	279
四半期包括利益	△288	△83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△266	△42
少数株主に係る四半期包括利益	△22	△40

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	国内 吉野家	海外 吉野家	京樽	どん	はなまる	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	63,764	7,418	18,084	15,151	12,356	116,775	4,033	120,809	—	120,809
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,124	—	4	50	—	1,179	358	1,537	△1,537	—
計	64,888	7,418	18,088	15,202	12,356	117,954	4,391	122,346	△1,537	120,809
セグメント利益 又は損失(△)	2,008	125	△39	△31	745	2,807	△36	2,770	△1,568	1,202

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社5社を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,568百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,712百万円、セグメント間取引消去202百万円、及びのれんの償却額△59百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	国内 吉野家	海外 吉野家	京樽	どん	はなまる	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	67,249	9,262	17,476	16,284	13,581	123,855	3,808	127,663	—	127,663
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	804	—	62	45	—	912	309	1,222	△1,222	—
計	68,053	9,262	17,538	16,330	13,581	124,767	4,118	128,886	△1,222	127,663
セグメント利益 又は損失(△)	1,313	199	△98	149	556	2,120	49	2,170	△1,818	351

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社5社を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,818百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,870百万円、セグメント間取引消去165百万円、及びのれんの償却額△113百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

当第3四半期連結会計期間より、当社グループ内における取締役の兼務状況を見直したことに伴い、各事業セグメント間の比較可能性を高める目的で、㈱吉野家、㈱吉野家インターナショナル及びヨシノヤアメリカ・インクから当社へのロイヤリティの配分方法を、全社セグメントに配分する方法から国内吉野家及び海外吉野家セグメントへ配分する方法に見直し、当社の取締役会に提供する各事業セグメントの損益の測定方法を変更しております。

これにより、従来の方によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ国内吉野家で713百万円、海外吉野家で342百万円増加しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失においても、変更後の測定方法に基づき作成したものを開示しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。